

2018年5月13日 「なぜ、親を敬うのか？」

「なぜ、親を敬うのか？」

今日は母の日です。父の日は一月後の6月17日です。時々、教会の執事会や理事会で次回のミーティングの予定を組むのですが、その日が母の日ですと「ああ、その日はやめましょう」となるのですが、父の日ですと「別にいいですよ」と言って、その日にミーティングがもたれることがあります。この違いは何なのでしょう（笑）。今日はこの母の日と父の日を思い、まとめてお話しできたらと願っております。

私達には誰しも、必ず生みの親がいます。そして、その生みの親というのは一人の父と一人の母であって、私には産みの親が3人、あるいは5人いるという人はいません。この二人があって、私達は今、ここにいます。

人はとかく傲慢になり、感謝を忘れがちであり、そのような時に私達はとても危険な状態にいるのですが、そんな時は自分のお腹にあるヘソに触れてみたらいいかもしれません。そこにある小さな“くぼみ”こそが、かつて自分が母の胎内にいた者であって、その母の体から生きるために必要ものを全ていただいたという証拠です。そうです、私達は完全に母に依存して生きていたのです。

私たちが独り立ちして大人になっても、地位を得たしても、このヘソがある限り、かつて自分は完全に依存していた者なのだということを知るのです。皆さん、自分も偉くなったもんだなどという思いがわいてきたら、ヘソに触れましょう。

このようなことを踏まえつつ、今日は神様が人に与えられた十戒の中の一つ、あの言葉に心を留めたいと思います。「あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである」（出エジプト記20章12節）

私の本棚には何冊かの子育てに対する書物があります。そして、本屋に行っても子育てに対する本は山積みになっています。最近になって「親の介護」ということが注目されていますが、子育てに関するものと比べればその数はまだ少ないのが現状です。

興味深いことに十戒の中に子供に関する戒めはないのですが、神様は十の戒めの中の五番目にこの戒めを入れました。ご存知のように十戒の最初の四つは神と人に関するもので、五つ目から人と人との関係になります。そのトップに神様は「父と母を敬え」という戒めを入れたのです。

2018年5月13日 「なぜ、親を敬うのか？」

10という数字を多いか少ないかと考える時に、その答えは人によって違うと思います。しかし、どうでしょうか、枕にもなりそうな、ぶ厚い法律書を見る時に、あの中に書かれている数千もの法律の中から10を選べということになると、10という数字はとても少ないものに思われます。

もし、私たちが人間に必要な法律を10だけ厳選しなさいと言われたら頭を抱えてしまうに違いありません。そのたった10の戒めの中の一つに、しかも人間に関する戒めの一番最初が「あなたの父と母を敬え」ということはよく考えたら、驚くべきことである同時に「なぜ？」と私達は思うのです。

創世記の2章には結婚の奥義と言われている言葉があります。つまり、最初の人アダムとイブに対して「人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである」（創世記2章24節）というみ言葉があります。

ここには結婚について意外なことが書かれています。つまり夫婦となった者は「父と母を離れなさい」というのです。「夫は妻を守り、妻は夫を愛し」とか、そのようなことではなく、当人である夫と妻に関することは何も記されず、ただ父と母について触れているのです。しかも、その時点でまた父と母はこの地球上に存在もしていないのです。そう、アダムとイブこそが人類最初の父と母になるのですから。

この言葉は男と女が夫婦になるということは、その二人の間に親を入れてはいけないと語っています。もちろん、それは子供もそうです。夫と妻だけが一体となるのであって、親子は一体となると聖書は言っていません。そして、このことは真理なのです。実際に夫婦の間の問題の多くは、この親や子が夫婦の間に入って来る時に起こるのです。聖書は最初から夫婦の問題の核心に触れているのです。

このように聖書は創世記において、その男性と女性が夫婦となるということは、「父と母から離れること」なのだと言っておきながら、十戒ではまず最初に「父と母を敬え」と言っているのです。

子供の頃、よくなぞなぞというものが子供たちの間でなされました。その中にこんなものがあります“車を運転中に交差点で何かを落としました。何を落としましたか？”为什么呢。答えは“スピード”です。今日、皆さんはどれ位のスピードで教会に来られたでしょうか。ハイウエーに乗るとほとんどの人達は80マイル以上のスピードで運転をしています。対向車もそのスピードで走っていると、互いに160マイルの速さで近づいていることになります。40マイルでぶつかる衝撃はビルの5階から落ちる衝撃といえますから、180マイルの衝撃たるや、その破壊力を想像しただけでも怖くなります。

2018年5月13日 「なぜ、親を敬うのか？」

この辺りのフリーウェイは平日、すごい車の数です。夜、運転しますと対向車がまるで光りの帯となっている光景を目にします。あんなに走っているのによく互いにぶつからないなと思います。なぜぶつからないのでしょうか。ドライバーの腕がいいのでしょうか。そうではないですね。道に線が引かれているから事故が起きないのです。

もし、フリーウェイに線が引かれていなければ、怖くて運転できないでしょう。そして、その線の本数が一晩で変わることなく、今日も明日も同じ場所に引かれており、私達もその線の中に留まっているゆえに事故から守られ、ドライブを楽しみ、安全に目的地に到着することができるのです。

それでは私達の人生はどうでしょうか。私たちの人生にこの線がありますか。神様はかつて人間に10本のラインを与えました。十の戒め、そう、十戒です。その戒めにとどまる時に私達は守られるのです。

現代はどちらかというと、ルールなどというものは堅苦しいものだと思われるのかもしれませんが。自分の好きなように生きればいいと多くの人は思いますし、またそんな思いが確かに私達の心にはあります。しかし、そのルールから外れることにより、私たちは時に自分自身を傷つけ、人をも傷つけます。時にそれは致命的なことになることもあるのです。

神様は私たちに十戒を与えられました。なぜ、神はこれを私たちに与えたのだろうか。それは、私たちのためです。この十の戒めを守ることこそが、私達の幸いの基となるからです。

かつてアメリカのパブリックスクールの教室にはこの十戒が掲げられていたといます。しかし、ある時からそれが取り除けられました。その時からアメリカは変わったと多くの人に聞きました。想像を超えた犯罪が増えたというのです。そうでしょう、今日の午後からハイウェイに記されている白線を消されたとしましょう。皆さんが今日、家に帰る時にフリーウェイで見る光景はどんな光景か、お分かりになりますでしょうか。

その白線の一つとして、神様は私達に「父と母を敬え」というのです。どんな人間にも父と母がいる。例外はありません。中には自分の両親の顔を知らないという方達もいますが、その方にも確かに父と母がいました。その父と母を神様はまず最初に敬えというのです。驚くべきことにそれは「殺してはならない」よりも先にきているのです！

「人を殺したら裁かれる」しかし「親を肉体的に傷つけない限り、敬うことをしなくても」法律で罰を受けることはない。一見、大きな問題には見えないよ

2018年5月13日 「なぜ、親を敬うのか？」

うに見える。しかし、神はそれを最初においた。なぜでしょうか。なかなか思い浮かびません。そこで発想を逆さにしてみました。私達が父と母を敬わない世界はどんな世界になるか。

その世界は私たちが思う以上に深刻です。赤ちゃんにとって、産まれて一番最初に遭遇する人は誰でしょうか。どうしていいのか分からずに、顔をくしゃくしゃにして喜んでいいる父親の姿です。そして、その側で出産という大任を終えた母の安堵した顔です。子は生まれた時から、この親との生活が始まる、そう、この二人の存在なくして、その子はそこにはいないのです。

その親を子が敬うことがないということは、それは親に反抗するとか、親が嫌いとか、その程度の範疇で収まることではないのです。別の言い方をすれば、自分の命の基となった親を受け入れられないということであり、しいて言えば、それは自分の存在をも受け入れられない、自分の存在を肯定できないというようなことにもつながりうるのです。そして、そこまで考えるのなら、それは私達の存在そのものに関わることでありますゆえに、神様は人を殺すなということよりも先にこの戒めをまず示されたのではないのでしょうか。

よくお話しすることがあるのですが、北海道にある罪を犯した少年たちの再生のために献身的に働かれている谷という先生が言うておられる。その少年たちに、谷先生がまず教えることは、主イエスが山上の説教で教えられたように「敵を愛する」ということだということです。その敵とは誰か。谷先生はそれは彼らの親、特に父親だということです。

罪を犯した少年たちの心に深くあるのは、自分の人生を受け入れることができず、むしろ、これを憎む思いだといいます。そして、その多くの子は親との関係に問題がある。ゆえに親を敵としてとらえることは、悲しいことではあるが、それが彼らにとっての更生の大切な一歩となるということです。

このことは、このような少年たちのみの問題ではない。私達にも少なからず起こるものです。日本とアジアで35年、学生伝道をしていた太田和（おおたわ）功一さんという方が書かれている一文を読んだことがあります。

太田和さんが大学生のためのセミナーで親との関係を取り上げた時の彼らの反応はその課題に取り組むことを避け、スポーツや歌うことに逃げ、ある者は取り組むことに激しく抵抗しました。そのことを通して、どれだけ、彼らがそのことに向かい合うことを避けているかということを知ったといいます。

そして太田和さんもある日、父と母について感謝出来ること、喜べること、嫌なこと、ゆるせないことを時間をかけて思い出して書いたといいます。そして、

2018年5月13日 「なぜ、親を敬うのか？」

一人きりになれる場所に行き、書き出したことを声にあげて読みました。喜びと感謝することを一つ一つ感謝しました。また、悲しみ、失望、傷ついていることを一つ一つあげて、十字架のゆるしの祈りのゆえに、父と母に対するゆるしを宣言しました。そして、自分の心にこれほどの痛みがあったのかと圧倒されながら、しかし不思議な解放感に心が包み込まれました。それは自分が赦すというよりも、自分のうちにおられるイエス様の赦しの祈りに和することから生まれる許しだったそうです。

今、世界中のカウンセラーは、色々なことに思い悩み、助けを求めてくる患者の幼児期にどんなことがあったかを丁寧に時間をかけて聞きます。そして、それはイコールその人と親との関係を聞くということです。三つ子の魂百までと言います。言うまでもなく、三つ子になる時まで、子供に最も深く関わる人は言うまでもなく、その子の親なのです。

聖書は古代の遺物、古の書物なのでしょうか。そうではありませんでしょう。今や世界が聖書が既に記していることの後を追っているのです。考えれば、そうでありましょう。神が人間を創造されたのです。車を組み立てた人が一番、車の構造を知っています。神は人間にとって、どんなにその親が大切なものであるかということを知っておられるのです。

ゆえに、神は言われるのです。「あなたの父と母を敬え」そして、その後半には「これは、あなたの神、主が賜る地で、あなたが長く生きるためである」と書かれています（このような“そうすれば”と書かれている戒めはこれだけなのです！）

このことは「あなたの父と母を敬う」ということは巡り巡って自分自身のためなのだということです。それによって、わたしたちが長く生きるためであるということです。これは文字通り、長生きするということだけではなく、それによって、私たちも幸いな生涯をつつがなく送るということです。

私は昨日、日本から帰ってきました。目的は一つ、母を訪ねるためです。ここ10年、そんな訪日を繰り返しています。母の誕生日は4月28日で、今日は母の日です。どちらの日にも母と共に居ることはできませんでしたが、これらのどちらの日にも近い時に行かせていただけたことを主に感謝しております。

母は日本、私は外国。そこには確かに大きな海が横たわり、ちよくちよく行けるようなものではありませんが、このように十戒をとらえるのなら、彼女を訪ねることは自分にも大切なことだと思っています。母を愛し、敬意をあらわすことは、すなわち自分の存在を認めることになるからです。もし、ここが崩れてしまったら少なからず、私の心身は何かしらの影響を受けることでしょう。

2018年5月13日 「なぜ、親を敬うのか？」

彼女は今、川越の施設におります。川越駅に行くと駅のコンビニで母の好きなプリンを買います。彼女は自分で食べることができませんから、ランチの後に私がスプーンでそのプリンを彼女の口に入れます。それはかつて母が幼い私に毎日、してくれたことです。

今になっては、どこか美味しいレストランに彼女を連れていくことはできません。私のために多くを犠牲にしてくれた母ですが、今、私が彼女にできることは、このプリンを彼女の口に入れてあげることだけなのです。

皆さんの多くは既ご両親を天に送っておられるかもしれません。私と同じように互いに海を隔てているかもしれませんし、色々な理由で親にできることにも限りがあるでしょう。こんな私が言うことではありませんが、共にできることも時間の経過と共に少なくなることでしょうから（年をとるということはそういうことです）、機会がある時に、よき思い出をご両親とおつくりください。そのように親にさせていただくことは、すなわち自分のためでもあるからです。

「とんび」というドラマがありました。そのドラマの中に男手一つで育てた息子が大学進学のために都会に出ていってしまうことを、酒を飲みながら嘆く父親に対して、居酒屋のおかみが語りかけるシーンがあります。おかみは言います。「親は双葉でいいの。双葉は一番、はじめに苦労して芽を出したのに、成長の全部を見ることはできないの。それが双葉の宿命なの。かわいそうなもんよね。世話になったことなんて振り返りもせず、感謝されるわけもなく、花はぐーんて伸びていく。親子って、そんなもんかもしれないね」

「男と女は父と母を離れ」ということを親の側から言わせてもらえば、もしかしたら親は自分を双葉として自覚することなのかもしれません。私達が成長するために、最初の双葉となってくれた父と母、彼らは我が子の成長を全て見届けることはできません。でもそれでも双葉はそれで嬉しい、それでいいと思うのです。子は自分にヘソがあることを忘れ、世話になったことを振り返りもせずに、そして花が咲いた、花が咲いたと喜んでいく。その時に親が思い起こされることはないでしょう、しかし、それでも心から嬉しい、それが親なのでしょう。そして、このような人は親以外にいないのです。

親との関係に多くの課題を抱えている方、事情があって長い間、互いに会わずにいるという方もいるかもしれません。私達がそうであるように、親とて人間、全ての人がイエス様の十字架を必要としています。私達にイエス様の十字架が必要なように、親にも主の十字架が必要なのだということを理解しましょう。あちらは私達を選んだのではなく、私達も彼らを選んだではありません。そ

2018年5月13日 「なぜ、親を敬うのか？」

れを決められたのは神様です。ですから、もし私達、親子の間に何か課題があるとしたら、それを解決してくださるのも神様です。

へそに触れてみましょう。100パーセント、私達はそこから命の糧を得ていました。そして、私達の誕生には苦しみが伴ったのです。その親があって、今の自分があるのです。親亡くして自分はなし。その親を敬うことは、私達が思う以上に、私達にも大切なものなのだと言われます。

「あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである」（出エジプト記20章12節）。この母の日に皆さんと共にこの御言葉に向き合うことができたことを主に感謝します。お祈りしましょう。